

■公益財団法人長崎平和推進協会 〒852-8117 長崎市平野町7番8号 ■電話(095)844-9922 FAX(095)844-9961
<http://www.peace-wing-n.or.jp>

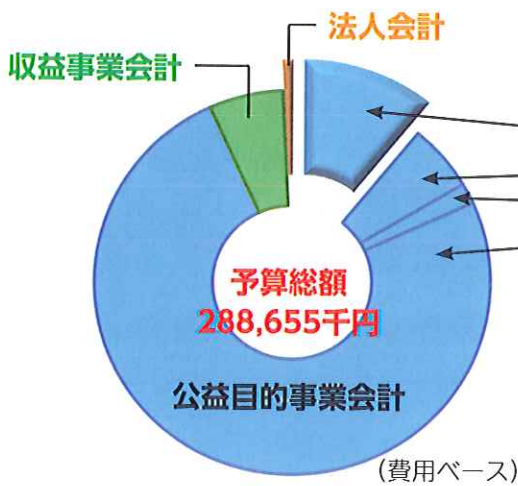
- 平成 26 年度予算・事業計画のお知らせ
- 神田香織氏講演会を開催
- 継承部会・平和案内人交流会を開催
- 市民対象碑めぐりを開催
- 第 5 期生平和案内人育成講座が終了
- 平成 25 年度被爆体験講話実施状況
- 「アジア青年平和交流事業」実施報告
- アジアの若者による平和ネットワーク構築プログラムを開催
- TOPICS ! (被爆体験講話者募集、五島市で原爆写真展を開催 ほか)

第 5 期生 平和案内人育成講座が終了!



第 5 期生平和案内人育成講座を修了された皆さん。本年 5 月から活動開始予定です。
(5 ページに関連記事)

平成26年度の予算と事業計画をお知らせします!



公益目的事業会計 268,955千円 (前年度比 7,785千円)

不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与する事業をいいます。

内訳

- ①平和推進事業(31,193千円)
- ②長崎原爆資料館運営事業(16,127千円)
- ③長崎原爆資料館図書資料収集整理事業(5,004千円)
- ④国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館運営事業(216,631千円)

収益事業会計 17,300千円 (前年度比 360千円)

原爆資料館の図書等販売コーナーで平和関係の図書やグッズを販売する事業のための会計で、収益は平和推進事業に繰り入れてさまざまな事業に使っています。

法人会計 2,400千円 (前年度比△135千円)

法人の事業を管理するため毎年度経常的に要する費用をいいます。

●上記のうち、皆さまからいただく会費や寄付金を受け入れる会計(平和推進事業会計・法人会計)の内訳です。

【収益】

(単位：千円)

科 目		平和推進 事業会計	法人会計	計	前年度 との差
基本財産運用収入	基本財産から得られる利子	10	0	10	0
会費収入	会員の皆さまからいただく会費	3,516	1,118	4,634	80
補助金収入	長崎市から交付される補助金	25,885	1,215	27,100	0
寄付金収入	協会に寄せられる寄付金	750	0	750	150
雑収入	各科目に当てはまらない収入	1	0	1	0
合 計		30,162	2,333	32,495	230
他会計振替額	収益事業からの繰入金	600	0	600	470
合 計		30,762	2,333	33,095	700

【費用】

科 目		平和推進 事業会計	法人会計	計	前年度 との差
事業費		31,193		31,193	827
発刊事業費	発刊事業等に係る費用	1,277		1,277	90
啓発事業費	被爆体験講話の実施や市民のつどい、講演会の開催等に係る費用	1,860		1,860	△ 207
調査研究費	国際会議等への出席に係る費用	100		100	0
育成事業費	部会活動の支援、アジア青年平和交流事業、平和案内人の派遣・育成、秋月グラント(助成)事業等の実施に係る費用	5,515		5,515	443
人件費	事業に係る人件費	19,171		19,171	474
その他事務費	広報・事業推進委員会会議費、PCリース料など共通の事務費	2,839		2,839	35
減価償却費	什器備品・ソフトウェア	431		431	△ 8
管理費			2,400	2,400	△ 135
人件費	理事会・評議員会等に係る人件費		1,215	1,215	32
その他管理費	協会の管理運営に係る費用		1,118	1,118	△ 167
減価償却費	ソフトウェア		67	67	0
合 計		31,193	2,400	33,593	692
減価償却費を除いた合計		30,762	2,333	33,095	700

I 平和推進事業（公益目的事業会計）

発刊事業

会報「へいわ」の発行 年4回、協会活動の情報発信のため会報を発行

ブックレット「平和のあゆみ」の発行 協会が取り組んだ事業概要（年1回）の発行

広報活動費 情報BOX、会員勧誘リーフレット作製

啓発事業

平和学習の実施 被爆体験講話者の派遣、平和学習用のDVD・ビデオ・写真パネルの貸出など

講演会等の開催 平和問題への認識を深める講演会等の開催

国連軍縮週間行事 市民向けイベント「市民のつどい」の開催

調査研究事業

平和・軍縮関係の国際会議やシンポジウムへの参加

育成事業

部会活動 継承部会、写真資料調査部会、国際交流部会、音楽部会の各活動への支援

アジア青年平和交流事業 日本とアジア諸国の若者との意見交換・相互理解を目指して、市内の大学等に事業を委託

平和事業への支援 協会の活動趣旨と一致する事業などへの助成

秋月グラント 被爆体験の継承や平和意識高揚のための事業を実施する団体等への助成

平和案内人派遣事業 碑めぐりや長崎原爆資料館、追悼平和祈念館等の案内を行う平和案内人の派遣

II 長崎原爆資料館運営事業（公益目的事業会計：長崎原爆資料館観覧料徴収・受付業務）

III 長崎原爆資料館図書資料収集整理事業（公益目的事業会計：長崎原爆資料館図書資料整理業務）

IV 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館運営事業（公益目的事業会計）

国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館の運営を通じて、協会とのかかわりの深い次の事業を行います。

被爆者証言映像制作 被爆証言の収録、映像化

被爆関連資料多言語化 収集した被爆体験記や被爆証言映像の翻訳、吹替映像の制作

海外原爆展 原爆のことを知る機会の少ない海外の人たちに向けて現地で原爆展を開催し、平和を発信

ピースネット 来崎が難しい遠隔地の小・中学生、海外の人たちを対象にインターネット会議システムによる被爆体験講話を実施

被爆体験記朗読ボランティア育成・派遣 被爆の惨状を朗読によって語り継いでいくボランティアの育成・派遣

平和ボランティア育成外国語講座 被爆の実相を世界に広げていくため、外国語（英語、中国語、韓国語）で平和ゾーンを案内するボランティアの育成

平和・国際交流のためのプログラム アジアの若者による平和のためのネットワーク作りのためのプログラムの実施

V 図書販売事業（収益事業会計）

VI その他管理運営に係る費用（法人会計）

神田香織氏講演会

「はだしのゲンを語り続けて」を開催

2月9日、当協会設立記念事業の講演会を長崎原爆資料館ホールにて開催し、約250人の来場者が講師・神田香織さんの力強く熱心な語り

に聞き入りました。講演では、神田さんがサイパン旅行で戦跡を見たことをきっかけに戦争をテーマにした講演をつくらうと決心したことや、そのテーマの重さに悩んでいるときに「はだしのゲン」に出会ったエピソード、神田さんの故郷で原発事故の影響に苦しむ福島県への思いなどを、時にはユーモアを交え、時には声を詰まらせながら語っていたいただきました。

また、神田さんの代

表作「はだしのゲン」に「チェルノブイリの祈り」の抜き読みも披露していただきました。聞く人の想像力をかき立てる神田さんの語りとその迫力に来場者は圧倒され、涙を流す方もいらつしやいました。



表情豊かに講演する神田香織さん

講演の終盤には、神田さんの motto である「あきれ果ててもあきらめない」「闘いは明るく楽しくしつつこく」を来場者とともに合唱すると、会場は大きな拍手に包まれ、盛況のうちに講演会を終了しました。

聴講した来場者は、神田さんの明るく前向きな語りに、元気をいただいたようでした。

継承部会 原爆遺跡研修班

市民対象碑めぐりを開催

3月9日、継承部会原爆遺跡研修班の主催で「市民対象碑めぐり」を開催しました。

高校生や小学生の親子連れなど、約70人の市民が参加した今回は、松山町から茂里町までの浦上川沿いに設置されている原爆の碑銘板6か所を訪れました。

訪れた場所では、父が勤務していた三菱電機長崎製作所鋳物工場を訪れた山脇佳朗さんがその道中で見た光景や、倒壊した製鋼所の撤去作業に従事した池田早苗さんの体験などが語られました。また、移動中にも、浦上川歩道橋の上から、当時の三菱長崎兵器製作所茂里町工場の場所が説明され、その広さを実感しました。



語りたいたいこと聞きたいことが多い、予定時間を大幅に超過しましたが、盛会のうちに終了しました。

継承部会・平和案内人

交流会を開催

2月23日、毎年恒例の「継承部会・平和案内人交流会」を長崎駅前のレストラン「プリマヴェール」で開催し、継承部会員・平和案内人・事務局職員合わせて56人が参加しました。

日ごろは顔を合わせても、ゆっくりと話す機会はなかなかないため、時間をかけて色々な話ができるこの会は貴重な交流の場となり、参加者はおいしい料理を囲みながら話に花を咲かせていました。

また、ステージでは、詩吟や歌の披露のほか、継承部会員・平和案内人として活動する中での思いなども語られ、大いに盛り上がり、参加した皆さんの親睦がさらに深まる有意義な時間になりました。



第5期生平和案内人育成講座が終了

昨年11月23日に開講した「第5期生平和案内人育成講座」は、5か月にわたる講座期間を経て、3月11日に全16回の講座を終了しました。

今回の育成講座には39人の方からご応募いただき、修了要件を満たした36人の受講生に対し、理事長より修了証書が手渡されました。

育成講座では、継承部会員による被爆体験講話や写真資料調査部長、長崎大学核兵器廃絶研究センター長などの専門家による講義、また、平和案内人を講師として長崎原爆資料館、追悼平和祈念館、平和公園周辺の被爆建造物等の見学（碑めぐり）・ガイド実習を行いました。

講座を通して、受講生は被爆者の心に寄り添うとともに、被爆の実相を学び、知識を深めることができたと思います。

原爆や平和に対する理解を深め、被爆の実相と平和の尊さを伝えることを目的に、平成17年度から始まった平和案内人派遣事業も、今年



被爆体験講話聴講の様子

で10年目を迎えます。被爆70周年に向け、「継承」が叫ばれるなか、これからますます平和案内人の必要性が高まります。新しく平和案内人の仲間になる第5期生を迎え、これからは核兵器のない平和な世界の実現に向け、活動を続けていきます。

〈受講者の感想〉

大変な事を始めてしまった。

平和案内人育成講座の回を重ねるごとに、そう思いながらの受講でした。

原爆の教育に関わる多くの方々との奥深い指導と、案内の実践実習を

行っていくなか、自分自身、あまりにも知らない事ばかりで、衝撃でした。特に被爆体験談を生の声で聞いた時は、その惨状と被爆者の方々の心情を思い聞きながら、涙が止まりませんでした。

戦後生まれの私達には、原爆の事を伝えていかなければいけない義務があると思います。人間の心も生活も何もかも破壊してしまった原爆の事は、聞いた事、学んだ事をありのままに伝えていかなければいけないと思いました。

小さな力だけでも、核の非人道的性に私なりの形で対峙していかなくてはいけないという事を学びました。



碑めぐりの様子(山王神社)

第5期生平和案内人育成講座の主な内容

内 容	講 師 (敬称略)
被爆体験講話	池田道明、深堀讓治 (継承部会員)
原爆資料館の概要	古場照幸 (長崎原爆資料館被爆継承課長)
原爆直後の救護活動と調査	三根眞理子 (長崎・ヒパクシャ医療国際協会)
ポイント強化解説	松田 斉 (平和案内人)
写真で見る原爆投下時の長崎	深堀好敏 (写真資料調査部会長)
現代の核問題と平和	梅林宏道 (長崎大学核兵器廃絶研究センター長)
原爆と報道	本田貞勝 (当協会理事兼広報委員長)
長崎市の平和行政	伊福伸弘 (長崎原爆資料館平和推進課平和発信係長)
先輩案内人からのアドバイス	熊本洋子 (平和案内人)

その他、長崎原爆資料館、追悼平和祈念館、平和公園周辺の慰霊碑や被爆建造物等の見学・ガイド実習を行いました。

平成25年度 被爆体験講話実施状況

平成25年度も、修学旅行で長崎を訪れる小・中・高校、研修を行う団体等より、多くの被爆体験講話の依頼をいただきました。

申込みのほとんどは長崎市内での講話ですが、県内外の自治体等からの依頼を受け、継承部会員が訪問して講話を行う場合もあります。今年度は、大



千葉市での講話の様子

分に、大分県大分市、兵庫県宝塚市など、14市町での被爆体験講話会の招へいに応じました。

また、平成23年度より長崎県が主催する「被爆体験講話派遣事業」に協力しており、留学生を対象にした九州内の大学、離島を中心とした県内市町にも訪問しています。

講話実績は昨年度よりやや減少傾向にありますが、今年度は被爆当時3歳以下だった若年被爆者が継

承部会に入会して部会員数は増加しており、また、被爆体験の継承についての論議も少しずつ進展するなど、継承部会の活動は活発になっています。

原爆投下から68年以上が経過した今だからこそ、二度と戦争を繰り返さないよう、核兵器が使われる日が来ないよう、戦争・原爆の悲惨さをこれからも訴え続けていきます。



秋田市での講話の様子

年度	件数	人数
21年度	1,282	166,312
22年度	1,333	165,859
23年度	1,352	172,820
24年度	1,342	172,911
25年度	1,312	167,642

被爆体験講話件数と聴講者数の推移
(25年度は26年2月末時点の見込)

「アジア青年平和交流事業」

実施報告

平成25年度の「アジア青年平和交流事業」は、長崎外国語大学の国際交流サロンチームと活水高校平和学習部のふりそでプロジェクトが事業認定を受けました。このたび国際交流サロンチームのイベント「Sweet's Champion! (スイーツ・チャンピオン)」が1月18日に長崎外国語大学にて開催されました。

このイベントは、留学生と日本人の若者が一緒になって、いろいろな国のスイーツ(お菓子)を作ったり、食べたりしながら国際交流を深めようというもので、留学生、日本人の大学生・高校生や一般の方、合わせて約80人が参加し、各国のスイーツを囲みながら、留学生の母国を紹介するプレゼンテーションやクイズ大会で盛り上がりました。

一方、ふりそでプロジェクトは、2月6日から11日にかけて実施された追悼平和祈念館事業「アジアの若者による平和ネットワーク構築プログラム」(詳細はページとコラボレーションし、現地より招へいたマレーシア人、韓国人と日本人学生、留学生との交流プログラムをメンバーが自分たちの手で企画、運営しました。

なお、同プログラムの中で、前記の「Sweet's Champion!」の実施報告会も行われました。



スイーツ作りの様子→



←おいしいスイーツを囲みながらの交流

アジアの若者による平和ネットワーク構築プログラム

2月6日から11日にかけて、追悼平和祈念館事業「アジアの若者による平和ネットワーク構築プログラム」を開催しました。

マレーシア人、韓国人の計13人が来崎

マレーシア・マラヤ大学からはアジア・ヨーロッパ研究所長のモハメド・ナスルディン先生、東アジア研究学科長のアスマディ・ハッサン先生、同学科フェローのロハヤティ・パイディ先生と学生4人、また(社)釜山国際親善協会からは李相烈常任理事と同協会が選抜した大学生・高校生5人の計13人が来崎しました。



来崎したみなさん

一行が到着した2月6日には歓迎式を行い、翌7日は当協会継承部会・原田美智子さ

んの被爆体験講話の聴講や原爆資料館、追悼平和祈念館、原爆落下中心碑等の見学を行い、被爆の実相について学習しました。



被爆体験講話の聴講

活水高校によるプログラム
日本人学生や留学生も参加

8日・9日の両日は、日本人の大学生・高校生や社会人さらには長崎在住の留学生も参加して、グループディスカッションやワークショップを行いました。この2日間は、活水高校平和学習部のふりそでプロジェクト(当協会「アジア青年平和交流事業」の認定事業)のメンバー13人が、企画・運営を行いました。グループディスカッションでは、「自分が考える平和とは」や「フィリピンの台風被害で被災した人達に何があげられるか」などをテーマに活発な議論が交わされました。



ディスカッションの様子

また、ワークショップでは、全員で協力して「平和の旗」の制作を行いました。なお、9日午後は、開催中だった「長崎ランタンフェスティバル」も見学しました。



制作した「平和の旗」

10日は、終日自由行動で、それぞれショッピングや観光を楽しみ、一行は11日に帰国の途につきました。

活水高校平和学習部の奥村侑希さんと松尾奈采依さんに感想をいただきましたので掲載します。

私たちは2月8日、9日の2日間を中国、韓国、マレーシアの学生と交流し平和について考える充実した時間を過ごすことができました。

きました。また、彼らの平和について考える姿勢に強い感銘を受けました。

今年は韓国とマレーシアの参加者からプレゼンテーションがあり、私たちも学ぶ機会が与えられました。彼らの発表の中には、「家庭や学校が平和教育の学習において重要な役割を担うべきである」といった若者の強い意志や「まっすぐな精神状態を持って生きてほしい」という次の時代を担う私たちに平和な世界を訴えるようなメッセージがありました。私たちは彼らのメッセージを聞き、たとえ国レベルでの対立はあっても、将来的には全世界が手を取り合って核兵器廃絶に向かって歩んでいける一歩を踏み出すことができたのではないかと思います。

一番印象に残っているのは「平和の旗」の作成です。6つの班に別れて白い布にそれぞれが思う平和を絵や文字で表現しました。鳩や虹、国旗を描き、独創的な作品を創りました。

この活動を通して、国は違っても、平和を願う気持ちは同じだということに再認識することができました。今後も若者がつながり合うこの活動を継続させ、平和を築いていきたいです。

被爆体験講話者(継承部会員)を募集しています

当協会では、原子爆弾被爆の実相を継承し、核兵器廃絶の実現や世界の平和を目指すために、継承部会員による「被爆体験講話」を実施しています。今、被爆者が高齢化する中で、被爆者自身による講話の重要性は増すばかりです。

そのような中、当協会では、継承部会に加わっていただき、市内の児童・生徒や修学旅行生など多くの人々に向けて、被爆時の体験や被爆者としての生き様などの「被爆体験講話」をしていただく方を募集しています。

詳しくは、協会事務局(☎(095)844-9922)までお問い合わせください。

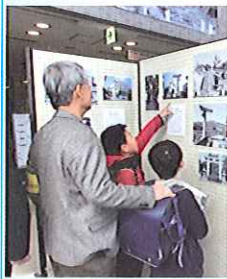
追悼平和祈念館の年間入館者が10万人に到達

平成15年7月に開館し、当協会が運営を行っている追悼平和祈念館の年間(年度)入館者が、本年(平成25年度)1月28日に初めて10万人に到達しました。昨年11月に通算入館者が100万人に到達し、記念セレモニーを開催したことに続く祈念館の節目となりました。

これもひとえに当協会役員や会員の皆さま、継承部会、国際交流部会、写真資料調査部会、音楽部会の部会員の皆さまのご支援・ご協力をはじめ、平和案内人の皆さまにたくさんの方の入館者を案内していただいたおかげです。今後も追悼平和祈念館が、死没者の追悼と平和を祈念・発信する場として、一層認知度が高まるよう館の運営に取り組んでまいります。

五島市で原爆写真展を開催

写真資料調査部会では、五島市で初めてとなる原爆写真展を3月10日から24日まで開催しました。会場には昨年文化財に指定された被爆遺構4か所の写真を中心に、大型パノラマ写真など約45点を展示しました。



五島在住の被爆者をはじめ、大人から子供まで多くの方にご来場いただき、今まで「原爆」に触れる機会が少なかった五島市民の方に写真を通して被爆の実相を伝えることができましたと思います。また、写真展最終日の24日には、丸田和男さん(継承部会)の被爆体験講話も行い、多くの市民が聴講しました。

ご存知ですか

追悼平和祈念館には、原爆の恐ろしさや悲惨さを綴った45,000件を超える被爆体験記が収蔵されています。被爆者本人の自筆による体験記を読んで被爆者の憶いに触れ、平和の大切



さを再確認しませんか。身近な方の体験記もあるかもしれません。

世界の核弾頭の数(2013年11月1日現在)

ロシア	米国	フランス	中国	英国	イスラエル	パキスタン	インド	北朝鮮	合計
~8,500	~7,700	300	250	225	80	100~120	90~110	<10	~17,300

長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA)提供 <http://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/>

当協会の活動は、皆さまからいただいた会費によって支えられています。まもなく平成26年度の会費払込取扱票をお送りしますので、最寄りの郵便局で納入くださいますようお願いいたします。

会費納入のお願い

- ◎松本美都恵 二万円
- ◎川上 正徳 一万円
- ◎池田 松義 七千円
- ◎河北 英夫 六七八三円
- ◎匿名 (敬称略) 六千円

寄付者紹介

ありがとうございます

会員数報告

- ◎維持会員 1,141人
 - ◎賛助会員 149団体・人
 - ◎学生会員 9人
- 平成26年3月13日現在

賛助会員(法人・団体)の一覧を協会ホームページに掲載しています。ご支援・ご協力誠にありがとうございます。